

別紙標準様式(第7条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和3年度 第1回 枚方市中学校給食あり方懇談会
開 催 日 時	令和3年11月4日(木) 15時00分から17時00分まで
開 催 場 所	輝きプラザきらら(教育委員会室)
出 席 者	春木委員、今城委員、田邊委員、中山委員、金子委員、 田中委員、武田委員、小西委員、山本委員
案 件 名	1. 会議における座長について 2. 会議の公開について 3. 枚方市の学校給食の現況について 4. 枚方市の学校給食に関するアンケート調査について 5. 大阪府の中学校給食の状況について 6. その他
提出された資料等の名称	資 料 1 枚方市中学校給食あり方懇話会の傍聴に関する 取扱要領(案) 資 料 2 枚方市の学校給食の沿革 資 料 3 枚方市の中学校給食 資 料 4 枚方市の小学校給食 資 料 5 学校給食に関するアンケート 資 料 6 大阪府内の中学校給食の状況 参考資料1 枚方市中学校給食あり方懇話会委員名簿 参考資料2 枚方市中学校給食あり方懇話会設置要綱 参考資料3 枚方市審議会等の会議の公開等に関する規程
決 定 事 項	1. 会議における座長と進行についての確認 2. 会議の公開についての承認 3. 今後の懇話会の進め方についての決定
会議の公開、非公開の別 及び非公開の理由	公開
会議録等の公表、非公表の別 及び非公表の理由	公表
傍 聴 者 の 数	2人
所 管 部 署 (事 務 局)	総合教育部 おいしい給食課

協議内容

開 会

事務局： 定刻となりましたので、ただいまから枚方市中学校給食あり方懇話会を始めさせていただきます。皆様方におかれましては大変お忙しい中、委員の就任並びに本会議へのご出席、誠にありがとうございます。

私、本日の進行を務めさせていただきます、おいしい給食課の小林と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、初めての会議でもありますので、出席者を紹介させていただきます。

まず、参考資料1に委員の皆様の名簿がございます。こちらに従いましてご紹介させていただきます。なお、枚方市立渚西中学校 栄養教諭 小西 卓 委員から本日遅れると連絡がありましたので、現在出席いただいている皆様につきまして、ご紹介させていただきます。

甲南女子大学 医療栄養学部 教授の春木 敏 様でございます。

摂南大学 農学部 講師 今城 安喜子 様でございます。

枚方市PTA協議会 会長 田邊 快應 様でございます。

枚方市PTA協議会 中学校部会長 中山 佳子 様でございます。

枚方市PTA協議会 給食委員会副委員長の 金子 智美 様でございます。

枚方市立中学校校長会会長 枚方市立第三中学校長 田中 博 様でございます。

枚方市小学校長会 枚方市立西長尾小学校長 武田 正道 様でございます。

枚方市立春日小学校 栄養教諭 山本 千晴 様でございます。

続きまして、枚方市教育委員会の事務局を紹介いたします。

総合教育部長の 新内でございます。

総合教育部次長の 大西でございます。

おいしい給食課主幹の 田中でございます。

おいしい給食課課長代理の 江見でございます。

おいしい給食課係長の 松岡でございます。

おいしい給食課係員の 龍田でございます。

以上。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、会議に先立ちまして、総合教育部長の新内から、ご挨拶を申し上げます。

部 長： 《部長挨拶》

事務局： 本日は、冒頭にもお伝えてしておりますが、初めての会議でありますので、しばらくは議事進行をこちらで進めさせていただきます。 まず、資料のご確認をお願いいたします。

《資料確認》

案件 1 会議における座長について

事務局： 案件1 参考資料2「枚方市中学校給食あり方懇話会設置要綱」をご覧ください。本要綱の第1条にありますように、「本懇話会は、持続可能で生徒にとって望ましい中学校の給食のあり方」を幅広く皆様からご意見をいただくための会議体でございます。また、第5条に進行方法に関する規定があり、その第2項には、「教育長は、懇話会の円滑な進行を図るため必要があると認めるときは、座長を置くことがある」とあります。今後も、本日のように教育長の招集により懇話会が開催される場合には、会議の円滑な進行を図るため、その都度、座長をお願いしたいと考えております。また、この懇話会は会議の開催ばかりではなく、個別に意見をお聞きするというあり方もございますので、その場合は、座長を置くことなく、個別に委員のみなさまにご意見をお聞きしたいと考えています。

会議の進行を行う座長につきましては、本市の食育推進全般にわたりご尽力いただいております春木先生をお願いすることを考えておりましたが、食育に関する幅広いご意見を色々とお聞きかせいただきたいことから、本日の進行につきましては今城先生をお願いできればと考えております。

今城先生に会議の進行にあたっていただきながら、春木先生から食育に関する意見をいただくという形で進めていきたいと思っておりますが、みなさまいかがでしょうか。

《意見なし》

事務局： それでは、今城先生お願いします。

今城委員： 本日、進行を務めさせていただきます今城と申します。よろしく願いいたします。私の専門は栄養教育でございますが、特に栄養教諭の育成にも邁進しております。この枚方市の児童生徒が、よりよい食環境で学びに専念できるようにして参りたいと思っております。

近年は食を取り巻く様々な問題が発生しております。特に成長期である児童生徒には大変深刻な問題であり、心身の成長のみならず、将来の健康にも大きく左右するものではないかと考えております。そのような背景を受け、平成17年に食育基本法が制定され、その中でも、特に目指す項目として「中学校給食」についても掲げられております。本日は、皆様にお集まりいただき、今後持続可能で生徒にとって望ましい中学校給食のあり方を、皆様からご意見を伺いながら話し合っていければと考えておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、皆様には、案件について、それぞれのお立場から、活発なご意見をお願いしておきます。

案件2「会議の公開について」事務局から説明をお願いします。

案件 2 会議の公開について

事務局： 参考資料3の「枚方市審議会等の会議の公開等に関する規程」をご覧ください。こちらの規程に基づき、本会議の公開・非公開の取り扱いについて、ご説明いたします。

第3条に会議を非公開とすることができる旨が規定されていますが、本会議は、これら非公開とできる事項のいずれにも該当しないと考えられることから、枚方

市に準じた形式で、公開とさせていただきたいと思います。会議録につきましても公表とし、発言された委員の氏名を公開することになります。

また、会議を公開とすることから、傍聴を希望される方がおられる場合に必要となる手続きについて定める取扱要領の案を資料1のとおりお示ししております。こちらについてもご確認いただき、内容にご異議なきようでしたら、ご承認くださいますようお願いいたします。説明は以上でございます。

今 城 委 員： ありがとうございます。

では、「枚方市審議会等の会議の公開等に関する規程」に基づき、本審議会は公開とするとともに、会議録についても公表とし、発言された委員の氏名を公開することになるとのことです。

また、傍聴に関する手続きについて規定する取扱要領を事務局案のとおり定めるということで、ご異議はございませんか。

《異議なし》

今 城 委 員： では、ご異議等ありませんので本審議会は公開とし、取扱要項を案のとおり定めるものとします。

それでは、事務局から傍聴希望者の報告を求めます。

事 務 局： 本日の傍聴希望者ですが、2名でございます。

今 城 委 員： では、傍聴希望者が居られますので入場していただきます。

《傍聴者入場》

今 城 委 員： では、次の案件に入ります。案件3「枚方市の学校給食の現況について」、事務局から説明をお願いします。

案件3 枚方市の学校給食の現況について

事 務 局： お手元の「資料2」をご覧ください。

枚方市の学校給食の沿革について、ご説明申し上げます。

枚方市の学校給食は、戦後の食糧難がまだ継続しておりました昭和22年に、町立枚方小学校で週1回の馬鈴薯給食、枚方小学校及び殿山第二小学校で脱脂粉乳によるミルク給食を提供したのが始まりです。

全国で、子どもの栄養状態が悪化している状況の中、国民の要望が高まり、昭和29年に「学校給食法」という法的な実施体制が整いましたが、枚方市は、学校給食法が制定される5年前の昭和24年に「枚方市学校給食会」を発足させ、26年にはパン・ミルク・副食による完全給食を開始しております。

また、調理場につきましては、昭和41年に第1共同調理場を設立。その後、昭和48年までの8年間で、第4共同調理場までの4つの共同調理場を設立いたしました。次に米飯給食の開始につきましては、昭和51年に文部科学省（文部省令第5号）による「学校給食法施行規則等の一部を改正する省令」で、米飯給食が制度上位置づけられたことに伴い、枚方市でも翌年の昭和52年に米飯給食の試験的な実施を行い、それ以降、年々米飯給食の実施回数を増やしてまいりました。

また、地元産野菜の使用につきましては昭和 62 年から開始し、平成 10 年以降は使用を拡大していております。平成に入りますと、子どもたちの食生活の乱れや肥満・痩身傾向など、健康を取り巻く問題が深刻化し、平成 17 年には食育基本法、翌年には食育推進基本法が策定され、学校における食育の生きた教材となる地場産物の活用や米飯給食の充実が、より一層求められるようになりました。

枚方市におきましても、資料の沿革がございますとおり、地元産野菜や米の使用を拡大し、平成 24 年からは枚方産の米についても給食に取り入れてまいりました。

また、より安全で衛生的な給食提供を行うため、給食の食器の見直しや、調理場のドライシステム化への改修をおこなうとともに、平成 25 年には学校給食食物アレルギー対応マニュアルを作成し、翌年から運用を開始。子どもたちが安心して楽しく美味しく給食を食べられるよう、危機管理体制の整備を行いました。

次に、中学校給食につきましては、平成 23 年に「中学校給食検討委員会」が発足され、翌年から「実施手法及び整備手法等に関する方針」を策定し、運用開始に向けて整備を進め、平成 27 年に全中学校の配膳室の整備を完了、また、小中学校の共同調理場である第一学校給食共同調理場を完成し、翌年の平成 28 年から選択制のランチボックス方式による中学校給食の提供を開始いたしました。

また、開始に伴い、プロモーションビデオを作成し、中学校給食の PR も行っております。

平成 30 年からは、市内小中学生から給食のメニューを募集する「枚方市学校給食コンテスト」を開始し、今年度は 3 回目の実施となり、現在、受賞者の審査を行っているところであります。

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症により、約 2 か月間学校が臨時休校となり給食もその間休止となりましたが、今後の分散登校等を見据えた緊急的・臨時的な給食提供を検証する為の取り組みとして、小中学生に対し、全員給食を 10 日間に渡り実施し、児童・生徒及び保護者へアンケートを行いました。この結果につきましては、のちほどご説明させていただきます。

最後に、今年度は、現在、行われております「枚方市中学校給食あり方懇話会」を設置いたしました。

様々な分野でご活躍されているみなさまからご意見を伺い、今後の枚方市の中学校給食のあり方について、検討し、生徒にとって望ましい給食提供に向け取り組んでまいります。

以上で、枚方市の学校給食の沿革についての説明を終わります。

つづきまして、枚方市の中学校給食及び小学校給食についての説明をさせていただきます。お手元の資料 3-① をご覧ください。

枚方市の中学校給食は、食を通じて健全な心身を育み、すこやかな成長と学びを支えることを目的に、平成 28 年からスタートしました。

給食を食べるか、家庭からお弁当などを持参するかを選ぶことができます。

中学校給食の特長や、献立づくりの考え方は資料のとおりです。特に献立づくりにおいては、栄養バランスだけでなく美味しさや手作り、食材や季節感も大切にして献立を考えております。

次のページをご覧ください。

枚方市の中学校給食は、給食を食べるか、家庭からお弁当などを持参するか選ぶことができることから、給食を食べる場合には、事前に申し込みを行う必要があります。

申込方法も、インターネットによる予約、マークシートによる予約、一度申込みいただくと毎月の予約手続きが不要となる自動予約といった、様々な予約方法を揃えています。

5 ページをお開きください。

中学校給食における食物アレルギー対応は、献立表での食物アレルギー情報の表示に加え、7大アレルゲンと言われる「卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かに」を使用しない食物アレルギー対応食の提供を行っています。

6 ページをお開きください。

枚方市の中学校給食は、生活保護及び就学援助を受給されている方については、給食を食べた日数分の合計給食費を支給しております。

資料3-②は、枚方市の中学校給食のポリシーやメニュー、申込方法を記載した利用案内です。入学時に全家庭に配付しています。

今年11月からは、中学校給食の新しいサービスを始めました。

1つ目に、ご飯量を、標準・大盛・小盛から選択できるようになりました。2つ目に、給食費の口座振替を開始しました。事前に登録いただいた口座から、自動的に給食費の振替をおこなうものです。給食費については、クレジットカードもしくはコンビニエンスストアで定期的にお支払いいただくことになっていますが、入金忘れにより、給食の予約がなされていない場合が見受けられました。この課題を解決し、さらに便利に中学校給食をご予約いただくため、口座振替を導入したものです。3つ目に、自動予約の申請をwebで行なうことができるようになりました。これまでの枚方市の中学校給食は、給食費の入金と予約の2つを行う必要がありました。この予約を自動で行う方法は従来からありましたが、おいしい給食課または学校へお電話いただいて書類をご提出いただく必要がありました。この申請を個人がwebで行うことを可能にすることでより便利にしたものです。

資料4-①「枚方市の小学校給食」をご覧ください。

学校給食の概要や小学校給食を作っている調理場施設、学校給食の内容、献立作成や給食食材の購入等について示しています。

言葉と紙面では説明しきれない部分がありますので、スライドをご覧くださいながら説明させていただきます。

《スライドにて説明》

では、枚方市の小中学校給食の概要から、給食に関する枚方市の取組みについて説明します。

まず、中学校給食の概要です。

中学校19校で給食を実施し、10月現在の在籍者数、10,205人の生徒及び教職員約800人が対象となります。

給食を食べるか家庭からお弁当などを持参するか選ぶことができる選択制の給食です。ごはんやおかずはランチボックスに盛付けられています。

今年10月は、35.6%の生徒が給食を申し込んでいます。

調理方式は、共同調理場方式です。選択制の給食ではありますが枚方市が建設した調理場で調理を行っています。

令和3年度の給食回数は、年間198回を予定しています。

本市の中学校給食については、全学期、始業式の翌日から終業式前日まで給食を提供します。

給食費は、日額 330 円。1 か月単位の予約としています。日毎の予約ではなく、1 か月単位の予約としているのは、文部科学省の摂取基準を満たすように1 か月単位で考えて献立作成をしていることや、様々な食材や料理を食べることで生徒自身の食育に繋がるとの考えからです。

中学校給食については、選択制の給食のため、個人 1 人 1 人が事前にお金の支払いと予約を行う必要があります。

現在、主食ごはん量を選択できること、口座振替による給食費の入金が行えること等の予約システムの変更を行い、より利便性を上げる改善を行っています。

スライドの写真は、給食内容の一例です。

枚方市の中学校給食は、飛行機の機内食を運ぶカートを活用して作られた保温カートを用い、温かい調理は温かいまま、サラダやデザートのような冷たい料理は冷たいまま提供しています。

おかずは、マグカップに入った汁物や煮物、赤色のランチボックスに入った温かい料理、白色のランチボックスに入った冷たい料理の 3 種類のうち 2 種類を組み合わせ献立作成を行っています。

ご飯は週 4.5 回、パンは週 0.5 回ということで、およそ月に 2 回のパンの提供となります。

次に、小学校給食について説明します。

小学校 45 校で給食を実施し、20,183 人の児童及び教職員約 1,300 人全員に給食を提供しています。

調理方式は、共同調理場方式と単独調理場方式があります。

共同調理場方式は、センター方式が 2 施設と小学校と小学校の親子方式が 5 施設です。親子方式とは、調理場が併設された小学校と調理場を持たない小学校の 2 校分を調理し、配送する調理場のことを言います。また、調理業務を委託している施設もあり、様々な形態で運営しています。

令和 3 年度の小学校給食回数は、年間 197 回を予定しています。小学校給食については、1 学期は始業式の翌々日から終業式前日まで。2、3 学期は、始業式の翌日から終業式前日まで給食を提供します。

給食費は、月額 3,800 円で、全学年統一です。なお、8 月と 9 月は、8 月・9 月を 1 か月分として徴収しています。

スライドの写真は、給食内容の一例です。

全市統一献立ですが、市内を A と B の 2 ブロックに分け、1 日ずらして実施しています。

ただし、小学校 1 年生の給食が開始する日や 6 年生の給食最終日、節分などの行事の日は全小学校が同じ日に同じ内容の給食を実施します。

ご飯は週 3 回、大阪府産の精米を使用しています。品種は、「ヒノヒカリ」もしくは「にこまる」です。

炊飯は業者委託しています。パンは週 2 回の提供です。

次に、給食の献立作成について説明します。

小学校給食については、まず献立の素案を栄養教職員など 6 人から 8 人程度で作成します。

その後、栄養教職員等と市の事務局で原案会議を実施して献立原案を作成します。作成した献立原案は、各学校の給食担当教諭と栄養教職員等が委員となる献立作成委員会で承認を得て献立決定となります。

中学校給食については、栄養教職員で素案を作成したのち、栄養教職員等と市の事務局で献立作成会議を行い決定します。後日、学校長やPTA代表、栄養教職員が委員となる中学校給食委員会にて献立報告を行います。

学校所属の栄養士は、栄養教諭が小学校13名、中学校2名のうち1名は食育加配の栄養教諭です。また、臨時技師が小学校・中学校あわせて7名、市会計年度任用職員が7名です。市会計年度任用職員は小学校の調理業務委託の調理場に配置されています。

献立作成にあたっては、小学校・中学校給食ともに、毎月のテーマを考えて献立立案を行っています。スライドでご覧いただいているのは、小学校給食の春の献立テーマです。4月、5月においては、春の食材に焦点をあて、献立立案を行いました。

また、新年度の給食ということで、食物アレルギーの対応や給食指導についても記載しています。このテーマは、各学校の給食担当教諭にも配信しています。

中学校においても、月ごとにテーマを設け、そのテーマに沿った給食献立を作成しています。

特に小学校給食の献立作成にあたっては、地元食材の使用も考慮しています。

枚方市では、児童生徒の食に関する指導や地域農作物の継続という観点からも、枚方産あるいは大阪府産といった、地元食材の使用を進めています。

スライドでご覧いただいているのは、枚方市内において、学校給食で使用される食材の生産地を地図上に示したものです。この生産者の方々は、学校給食のために食材を生産してくださっています。

使用する地元食材は月ごとに変わります。基本的に、地元食材は、大阪府の「大阪エコ農作物」の認証を受けたものであり、使用に当たっては、毎年北河内農業協同組合及び生産者組合と使用品目・使用月・数量について打合せを行っています。

ただし、地元産野菜は気候状況が大きく関与することから、計画通りに実施されないこともあります。

現在は、主に小学校給食で地元食材を使用していますが、中学校給食でも取り入れることがあります。

また、食材の選定においては、小学校給食・中学校給食とも同じ食材を使用します。食品の安全性を考慮し、物資選定委員会にて使用食材を決定しています。学校長やPTAの代表も委員として参加いただきます。

品質だけでなく調理のしやすさ、価格等も比較して物資を選定します。

次に、学校給食における食物アレルギー対応についてです。

枚方市の食物アレルギー対応については、枚方市教育委員会の「学校園におけるアレルギー疾患対応の手引き」に基づき行っています。この手引きは、給食担当課だけで作成したものではありません。食物アレルギー対応は、学校給食だけの対応ではなく、学校全体の対応であるとの考え方により、学校保健の担当課と給食担当課が一緒に作成したものです。

学校給食における食物アレルギー対応は、全市統一です。

学校生活管理指導表に基づく対応を実施しています。

食材の詳細情報を公表するとともに、小学校給食については栄養教職員による面談を、毎年基本的に実施し、食物アレルギーの状況確認を行っています。

小学校給食においては、卵、乳、エビを料理から除いたものを提供する「除去食対応」です。

中学校給食においては、7大アレルギー（卵、乳、えび、小麦、落花生、そば、かに）を使わない別の料理を提供する「代替食対応」を行っています。

小学校給食については、対象者に配付する食物アレルギー対応献立表を用い、保護者及び学校が給食内容について確認を行っています。

食物アレルギー対応食の提供方法ですが、小学校においては、専用容器に食札をつけて対象者に提供します。食札には、対象児童の学籍や名前、料理名、アレルギーを記載します。また、汁物や煮物などは、保温容器を使用することもあります。

中学校給食においては、基本の給食とは違う色のランチボックスに盛りつけた上で、食札をつけて提供します。スライドの写真にありますように、温かいおかずは基本的に赤色のランチボックスに盛りつけられますが、食物アレルギー対応がある場合には、ピンク色のランチボックスにアレルギー対応食を盛りつけ、食札を貼って提供します。冷たいおかずやマグカップに入った汁物なども、それぞれ異なる色のランチボックスやマグカップに盛りつけ、食札を貼って提供します。

次に、ミキサー食の対応についてです。枚方市においては、嚥下障がいなどのある児童生徒に、ミキサー食の提供を行っています。現在は、きざみ食などの段階調理は行わず、ミキサーによるペースト食のみの提供となっています。

調理は全て衛生管理を行っている調理場内で行います。また、実施に当たっては、事前に保護者と面談を実施しています。本年度は、10人の児童生徒（実施学校数8校）での実施です。

次に、学校給食全般に関する取り組みです。

枚方市の学校給食の取り組みを、広く児童生徒や市民にお知らせするため、様々な取り組みを行っています。

まず、令和元年度より実施している学校給食コンテストです。

毎年テーマを設け、小学校5、6年生と中学生を対象に食べたい給食のレシピを募集します。栄養教諭や学校長等が審査をおこない、優秀作品を決定し、その中から学校給食で実際に提供します。

応募作品の中には、調理工程や、実際に児童・生徒が調理している写真を添付して応募する作品もあり、学校給食にとどまらず食育の面でも良い刺激になっているものと感じています。

今年度のコンテストテーマは、「ごはんがすすむ野菜料理」です。小学校は1,235作品、中学校791作品の応募があり、現在審査中です。

これまでの給食コンテストの入賞作品の一部を見ていただきます。

どの作品も、児童生徒のアイデアにあふれています。

小学生の入賞作品である「さばの竜田揚げきのこあんかけ」は、下味をつけた鯖を揚げ、たっぷりのきのこやトウモロコシが入った餡をかけたものです。

中学校の入賞作品である「栄養満点！野菜の麻婆炒め」は、レンコンや白菜、大根の葉を使ったマーボー炒めで、冬野菜をおいしく食べられる料理でした。また、小学校の入賞作品である「白菜たっぷり鶏ちゃんこ風うどん」は、冬野菜である白菜を使い、隠し味に、擦りおろした生姜とにんにくを使ったみそ味のうどん料理です。いずれも、学校給食で提供しました。

このコンテストを通じ、児童生徒の楽しい発想を感じることができました。

その他、枚方市の学校給食を皆さんに知っていただく取り組みとして、枚方市教育委員会のブログや広報ひらかた、料理掲載サイトにも給食料理を情報発信しています。

スライドの写真は、広報ひらかたの特集である「枚方キッチン」です。この「枚方キッチン」では、おいしい給食課と枚方市の保健センターが交代でレシピを掲載しています。

おいしい給食課では、学校給食のレシピをもとに、家庭で調理いただけるようアレンジしてレシピを掲載しています。また、小学校・中学校の給食をより多くの方に知っていただく取組みとして、市内のスーパーマーケットに学校給食の献立表を掲示していただいています。

今の学校給食の内容に関心をもっていただくことで、家庭の食事を考える際の応援になればと考えています。また、小学校給食も中学校給食も、その献立や調理の様子について市民のみなさんに広く発信することを心がけています。そのひとつとして、全市民に配付される「広報ひらかた」に給食の特集を掲載しました。枚方市内にあるパナソニックアリーナを本拠地とするバレーボールチームの、パナソニックパンサーズの選手に、実際に中学校給食の調理を体験いただき、その様子を掲載しました。このスライドにあるのが実際の広報ひらかたの紙面です。この記事で、多くの市民の皆様にご覧になっていただくことができました。紙面をご覧になった方々からの感想として、「給食はバランスよく作られていて、ほんとにすごいと思います。作られる工程は知らなかったので勉強になりました。」「今回は子どもの給食がどのように作られているのか分かり、とてもありがたかったです」「いつも話を聞くだけなので来年も給食を続けたいと思います」「子どもが美味しいと言うのが分かりました」等、たくさんのご意見をいただきました。

以上、簡単ではありますが枚方市の中学校給食・小学校給食についてご説明いたしました。

今 城 委 員： ありがとうございます。「枚方市の学校給食の現況について」、何かご意見、ご質問等ございませんでしょうか。

《質疑なし》

無いようですので、続いて、案件4「枚方市の学校給食に関するアンケート調査について」事務局から説明をお願いします。

案件4 枚方市の学校給食に関するアンケート調査について

事 務 局： お手元の資料5をご覧ください。これまで、枚方市において実施しました中学校給食に係るアンケート結果をご提示しています。

順に、要点を説明いたします。

資料5-①「中学校給食についてのアンケート結果について」をご覧ください。

このアンケートは、平成23年2月に、小学校5、6年生と中学校1、2、3年生を対象に全小中学校の各学年1クラスを抽出して行ったものです。平成23年ですので、中学校給食は開始されておらず、今後の中学校給食について検討が始まった頃のものであります。

結果の概要として、「中学校でのお昼ご飯として最も良いものはなにか」との問いに対しては、「家で作る弁当」と回答した小学生が58.2%、中学生が51.4%と最も高い割合を示していました。「中学校の昼食で最もよいもの」という問いに対して学校給食と回答したのは、小学生18.5%、中学生17.6%でした。

次に、中学校給食の実施については、小学生の33.5%、中学生の43.8%が賛成との回答でした。賛成の理由としては、「栄養のバランスがとれる」「親の手間が省ける」という意見に加えて、「家庭で食べられないものが食べられる」との意見もありました。反対としては、小学生65.5% 中学生55.4%となりました。昭和63年にも一度中学校給食についてのアンケートが実施されており、その時のアンケートとの比較として、前回の数値を掲載しておりますが、昭和63年当時での中学校給食の実施については小学校が18.4%、中学校で27.4%が賛成という結果であり、若干賛成の数値が多くなった事を示しています。また、中学校給食だけでなく、いろいろな調査もされていますので、またご覧いただければと思います。

続きまして、資料5-②「中学校給食に関するアンケート調査結果報告書」をご覧ください。このアンケート調査は、平成24年1月に実施、2月に結果報告したものです。対象は、市内在住の満16歳以上の方から無作為に3,000人を抽出して行ったものです。概要としましては、少し掻い摘んで報告しますが、質問2「学校給食で良かったことはなんですか」という問いに対しまして、「みんなで同じものを食べることが楽しかった」が845件、「家庭での弁当作りの負担が軽減された」が710件、「おいしかった」が666件、「健康・体力づくりにつながった」が489件の順になります。

質問3です。「学校給食で良くなかったことはなんですか」との問いに、一番多かった回答は「嫌いな食べ物を食べなければならなかった」が594件となっています。

質問4の中学校における昼食については様々な意見があります。「中学校給食について望ましいと思うもの」という問いに対しては、「全員を対象とした給食が望ましい」は961人で59.4%、中学生以下のお子様をお持ちの保護者の方は、70.7%が全員を対象とした給食が望ましいと回答でした。全員を対象とした給食が望ましいと回答した方に対して、「その理由は何ですか」とお聞きしたところ、「健康・体力づくりのことを考えると栄養価が配慮されている給食がよい」というのが一番多い回答でした。

また、質問4で、「給食又は弁当やパン等の持参を選択できることが望ましい」と答えた方に関しまして最もご意見が多かったのは、「必要に応じて給食や持参弁当などを選ぶことができるから」でした。13ページからは自由記述欄ですが、「学校給食でよかったことは何ですか」や「よくなかったことはなんですか」ということについてお聞きしています。そのなかで、15ページ「全員給食の方式が望ましい」と答えた方のその他の意見としまして、「全員を対象としたほうが友達同士の関係もうまくいくと思う」や「弁当を作ってもらえない子も食べることができる」という回答がありました。反対に選択制の学校給食の方式が望ましいと回答された方の意見としては、「家庭環境は様々なため、様々な選んだほうがいいのではないか」や「お弁当を作る楽しみもできるから」という意見もありました。それ以外にも栄養面のことや同じもの食べるという意見など様々にありますので、また、ご覧いただければと思います。

続いて、5-③「中学校給食に関するアンケート調査」をご覧ください。

枚方市の選択制中学校給食が開始して半年経った平成28年10月に、各中学校に在籍する1年生全員を対象に行ったアンケート調査結果です。

まず、喫食の状況ですが、継続的に給食を食べている生徒は24.5%で4人に1人の割合でした。次に、給食を食べる食べないの判断については、食べていない生徒の意見としては、自分の判断・考えで食べていないとの回答が多く見受けられ

ました。次に、給食を食べていない生徒に対し、「どうして給食を食べていないのですか」という問いについては、「給食より家から持ってくる弁当を好む」傾向が大きく現れ、また、「好き嫌いがあるので、お弁当がよい」という理由もありました。その他、「量が多くて食べきれない。」や逆に「量が少なくて物足りない」という意見も見られました。

次に資料5-④をご覧ください。こちらは、中学校給食に関する生徒アンケート調査で、平成31年3月に行っております。中学校給食の開始から約3年経過した時点のアンケートとなります。対象は、市内の中学校19校に在籍する1年生2年生の内、各1クラスずつを選んでいただいて実施しました。喫食の状況につきましては、継続的に給食を食べている生徒は36.4%で3人に1人の割合になっております。一方、給食を全く食べていない生徒は54.8%で、過半数を超える生徒が給食を一度も食べていないという状況になっています。給食を食べる食べないの判断につきましては、毎月給食を食べている生徒では、「親、保護者のすすめ」が70%を超えており、保護者の考えが大きく影響している結果であると読み取れます。次に、「給食を食べない場合のお昼ご飯について」という内容でアンケートを取っております。給食を取っていない生徒の91.7%は「家庭から昼食を持参している」という結果でございました。残りの生徒は、「コンビニのおにぎりやパンなどを購入している」やその他という回答でした。

続きまして、給食を食べない理由については、給食より家から持ってくるお弁当を好む傾向が大きく表れています。また、「好ききらいがあり食べない」という生徒も22.5%あり、平成28年10月の調査で「好ききらいがあり食べない」との回答が18.5%であったものと比較すると、若干割合が高くなっていることがわかります。

続きまして最後のアンケートですが、資料5の⑤臨時的な給食提供についてのアンケートになります。こちらのアンケートはこれまでのアンケートと趣旨が異なっておりまして、新型コロナウイルス感染症拡大における中学校給食のあり方に関するアンケートになります。新型コロナウイルス感染症拡大に伴いまして、令和2年度に関しましては、臨時休校や分散登校という実施がございました。臨時休校や分散登校を行うときの給食について、「給食は必要かどうか」という内容を確認させていただいたものです。

「分散登校になった場合、学校で給食提供することについて」のところで、「臨時休校時の給食は必要ない」と回答した保護者は61.1%、「臨時休校時に給食提供を希望する」と回答した保護者は68.6%でございました。その他、このアンケートの4ページ目以降に関しましては、臨時休校や分散登校になった際の給食提供だけではなく、普段の学校給食についてもご意見をいただきました。「中学校給食を現在食べていますか」という問いや、「現在の中学校給食に対して満足されていますか」というような内容を聞かせていただいております。現在給食を食べている生徒の約4割、保護者では約5割が、給食に満足しているという結果が出ております。

その他、学校給食については、栄養バランスについて高い評価を受けており、保護者からは夏場の食の安全についての評価が高くなっております。最後に小学校給食の現状についてもアンケート結果を掲載しておりますので、また、ご覧になっていただければと思います。

今 城 委 員： ありがとうございます。

「枚方市の学校給食に関するアンケート調査について」、何かご意見、ご質問等

ございませんでしょうか。

春木委員： このアンケートについての生徒や保護者の実人数や回答率は？

事務局： 市民に対して行ったアンケートにつきましては、回答率は53.9%程度ですが、生徒・保護者に実施したアンケートにつきましては、70%以上の回答を得ております。平成28年度については、生徒のみ対象のアンケートで、その際は95.7%の有効回答率、平成31年3月に行ったアンケートにつきましても、生徒のみの対象で、これも90%以上の回答率となっております。なお、この2回のアンケートにつきましては、生徒のみですので、保護者には実施していません。

春木委員： 喫食者の児童生徒がどのように考えているのかを確認するのは、とても大事な活動であるし、また、保護者がクッキングをする方、クッキングレスの方がいるので、クッキングレスの場合は「給食を食べなさい」や「途中で買っていきなさい」というような傾向があるので、そのあたりもよく考えないと、今後の対応方法を考えるうえで難しいのではないかと思います。アンケートを実施するのはなかなか難しいが、その点を視野に入れてデータをキャッチしておくとう有効な活動が可能になって、子どもたちの食事改善につながるのではないのでしょうか。

今城委員： 私から皆様にお聞きしたいことがあります。

現在、中学校給食を選択している生徒のみなさんが、給食をきっちり食べているか、選択していない生徒は、どのような食事になっているのか、お弁当を用意されている中でも、手作りのもの、冷凍食品やコンビニなど様々だと思いますが、また、お弁当の用意がない生徒、菓子パンだけ、ほとんど食べていない、などその内容は様々になっているのではないかと気になるところであります。

成長期にある中学生において、1日3食のうちの1食である昼ごはんを、中学校生活の3年間で、どのようにしてきたのが大事だと考えます。食事は薬のような即効性はございませんが、バランスの良い給食を継続的に食べたかどうかにより、今後の成長だけでなく健康にも大きく左右されることは言うまでもありません。

学校教育の場においては、全ての生徒が栄養バランスのとれた食事を摂るということは学習の根本ではないかと思えます。給食も持参弁当もメリット、デメリットはあると思いますが、ここで、みなさんと共有したいデータがあります。

平成27年度の厚生労働省の科学研究班による調査結果ですが、給食の有無による栄養素の摂取状況の違いのデータがあります。給食のない場合の一日の摂取状況は男女ともに、ミネラル群・ビタミンAやビタミンB群、食物繊維などが明らかに少ないという結果が出ております。この調査は、小学校3年生、5年生、中学校2年生を対象に行われておりますが、学齢が上がるに伴って、その傾向が強くなっており、また、逆に脂質が過剰傾向にある結果も見られます。この調査はあくまでも、給食があった日となかった日との比較データであるが、その結果を踏まえて、現在の枚方市の中学生の昼食の内容が大変気になるところです。今後、生徒の皆さんにとって望ましい給食を考えていく中で、本日出席いただいた様々な立場の方からのご意見、実情などをお聞かせいただければと思います。いかがでしょうか。

また、お聞かせいただく中で、色々と情報共有、情報収集ができればと考えております。

小西委員： 私が所属している中学校は、中学校給食の喫食率が高い方だと思いますが、現状では、弁当持ってきている生徒も給食を頼んでいる生徒も、比較的野菜を残しており、お弁当についても色合いは茶色が多い印象で野菜不足を感じます。買ひ弁に関しては菓子パンが多く、野菜や海藻類などが中々摂れていないのではないかと現状の印象です。

山本委員： 小学校では全員給食ですが、残菜率では野菜寄りが多いです。学校により異なりますが、小学校については給食時間に関係していることも多く、時間が長いと残食が減る傾向にあると思います。小学生は声掛けをすると、意識が向きやすいので残食は減ります。

武田委員： 教師や周りの大人からも声掛けすることにより、子供が給食に対する姿勢が変わってくるという印象があります。

一つ小学校の段階でこうすればいいのではないかと考えたことがあります。

食事は体にとってよいものであること、例えば、今日の給食はこんな内容で、この食材は体を作ることにつながるんだよというようなことを、クローズアップして、給食の時間を使って、食育を行うのもよいのではと感じています。また、枚方市はタブレットを配付しているので、今日の給食に関することなどの情報を配信すれば、子どもたちだけではなく家庭でも見ることができ、活用できれば、さらに意識が高まると思います。

小学生は、食に関する知識が行動に出やすい時期だと思います。

そのことを感じた私の経験のお話をさせていただきますと、今は朝礼ができないので、放送で朝の集会をしているのですが、その時に、自分たちの見えないところで、給食を作るために色々な人が働いていることを話しました。具体的には、給食のために牛乳を遠方から朝早くから配達する方の話だったのですが、その話をしたら、牛乳が嫌いな児童が、その日の給食の牛乳を頑張って飲んでいました。それ以降も毎日残さず飲んでいて担任から聞いています。子どもたちには、色々なことが響くんだなぁと感じていますので、色々な情報を必要なときに発信していけるようにしていければと思います。

田中委員： 28年から中学校の選択制が始まって、2校赴いていますが、ほぼ手作り弁当で、毎日コンビニでパンを買ってというのは、比較的少ないと思います。

「生徒にとって望ましい給食のあり方」ということが、この懇話会での検討事項となっていますが、今の選択制の給食が、先程のアンケートの結果からも、「やや満足している」「満足している」が50%程度ということであったが、給食を食べている生徒に対してのアンケート結果としては、この位の数字が一般的で現状ではないかと思っています。「やや満足している」「満足している」を合わせると8割強の回答となっており、それが給食を食べている生徒の現状だと思います。

また、給食における栄養や食育のことに対して誰も否定はしないと思います。今回のあり方をどうするかについて、小学校は全員給食、中学校は選択制で、中学校の喫食率は、この5年間、35%程度でほぼ変わっていないと思っています。そのあたりのことを事務局がどう思っているのか、ほぼ良いものと言われているものを、どういう風に今後のあり方として進めていくのかというのが、この懇話会の議題なのかなと感じています。アンケートをいくつかとっているが、古いものや、臨時的な状況の中のものでは今回の懇話会での話の中では役に立たないと思います。コロ

ナ禍での現状の中で、この先、どう選択制をどのようにしていくのかを事務局へお話しさせていただければと考えています。

春木委員： 給食管理というのは難しいと思います。栄養教諭にも協力いただきながら、子どもたちの昼食の現状をデータ化し上手く活用すれば、枚方市としてこれからどうすべきかという方向性が見えてくるのではないかと思います。子どもたちが、バラバラな内容の昼食状況であるというのは、それはそれで心配な部分もあります。平均的に学校ができる可能な範囲での絵を描かれて、いくつかトライして、検討しながら進めていけば上手くいくのではないのでしょうか。今の家庭の食生活は千差万別であり、それをサポートするのが学校給食ではないかと思います。もちろんマンパワーとかの問題もあるとは思いますが、枚方市はここまで取り組んでこられたので頑張ってもらいたいと思います。

田邊委員： 今年の11月から中学校給食のご飯の量が選べるようになって、ご飯の大盛については今の2倍量になることもあって、子供たちの中で、こんなに多いのか、1.5倍はないのかという生徒の意見もあると聞いています。

先ほど委員が給食を「残す」という現状があるとおっしゃっていましたが、なぜ残すかということ、現在の中学校給食はランチボックスという形式で、お弁当箱と同様「隠せる」からだと思います。残しても隠せるから、残したことが誰からもわからない。親は嫌いなものでも栄養があるから食べさせようと思って、お弁当に入れていますが、子供は食べたくないからその場で拒否する現状があると思います。

どの位のエネルギーやどんな栄養素が摂れるかをすべて把握して、普段の食事を食べている方はほとんどいないと思いますが、給食はそこまで考えて提供されているものですので、すごく素晴らしいものだと思います。

なぜ、小学校になれば全員給食なのかという原点を考えることが、中学校給食を考える際にも必要なのではないかと感じます。逆にいうと、小学校でも選択制で良かったのではないか。なぜ、小学校では完全に給食があるのか。それは、どのように考えて提供されているのか。給食基本法や国や法律があるからとは思っていますが、それと同様に中学校給食も考えてもらって、今後の子どもたちの成長につながるようにしてもらいたいと思います。

中山委員： 中学校部会の会議でも給食のことについては19校で意見いただいております。中学生になると親に提出物を渡さないという点で苦労することが多い中で、学校でもらってきた献立表を親に渡さない、そのため、親が給食の献立を知らないということがあり、親同士で「今日はこんなおいしそうな給食だったよね。」という話をしても、そんな献立があったことを知らなかったということがよくあります。朝の忙しい中、お弁当を作っている保護者が多い中で、こんなに栄養がある給食が食べられるのだということを知ることができたら、おそらく、もっと給食を食べさそうかなあという保護者もいると思いますし、私も献立表を子どもと見ながら、「今月寒くなってきたから、温かいスープやご飯が食べられるし給食にしようか。」という話もします。ですが、他の保護者は献立表を見たことがないという方もおられるので、あんなに立派な献立表を配付していただいているのですが、保護者が献立や給食について知れる機会があればいいのと思います。子どもからは、昼食が給食で提供される牛乳パックの大きさ位のジュースだけという生徒や非常に量が少ない昼食を持ってこられている生徒がいることを聞いてます。しかし、小学校からずっと食育を学んできている中で、このような状況は良くないと思っています。

中学生にもなると、「今日はコンビニで買っていく」と子どもから言われると、食事内容について親の目も行き届かなくなり、中には食べていない子どももいると言うことを耳にする中で、できる限り早く中学校の全員給食が叶えばという保護者からの意見はよく聞きます。いつも、給食はおいしくいただいており、ありがたいと思っています。

金子委員： 私も同意見です。

今城委員： 喫食の状況やその内容については、私からも何らかの状況把握は必要であると思いはしておきたいと思います。

他、ございませんか。

無いようですので、続いて、案件5「大阪府内の中学校給食の状況について」事務局から説明をお願いします。

案件5 大阪府内の中学校給食の状況について

事務局： 中学校給食の実施状況「中学校給食導入促進事業の進捗状況について」ご説明させていただきます。資料6をご覧ください。この資料につきましては、令和2年10月末現在の大阪府教育庁の資料に基づいております。

枚方市については、(先にご説明のとおり、) 選択制のランチボックスにて、センターで調理し保温カートにて各中学校へ配送し給食を提供しております。大阪府の他市の状況ですが、全員給食は、府内の43市町村のうち32市町村、選択制については、11市となっています。

全員給食で申しますと、食缶での提供が26市町村で、ランチボックスは6市町となります。また、食缶の場合の調理方式については、センター方式、民間調理場活用方式、自校調理方式、親子調理方式に分かれている状況ではありますが、全員給食のみで見ますと、食缶での提供が主流となっています。

ただし、親子調理方式に記載しています、大阪市、高槻市、島本町は、自校調理方式との併合にて給食を提供しております。

次に、選択制での提供についてですが、枚方市を含めランチボックスは9市、食缶は2市となり、選択制に限って申しますと、ランチボックスが主流となっています。

また、ランチボックスでセンター方式を実施しているのは、本市以外では、河内長野市のみとなっています。

ちなみに、枚方市を含む大阪府北河内地域の7市で比較しますと、全員給食は、調理場の方式は異なりますが、四條畷市、交野市、大東市、寝屋川市、門真市の5市、選択制は、枚方市、守口の2市となります。

また、府内中核市の7市のうち、全員給食は、東大阪市、高槻市、寝屋川市の3市、選択制では、枚方市、豊中市、吹田市、八尾市の4市が実施している状況となります。

以上、「中学校給食の実施状況」の説明を終わります。

今城委員： ありがとうございます。

「大阪府内の中学校給食の状況について」、何かご意見、ご質問等ございませんでしょうか。

《質疑なし》

今 城 委 員： 他、ございませんか。それでは、「案件 6. その他」について、事務局から何かありますでしょうか。

案件 6 その他

事 務 局： 今後の懇話会ですが、今年度中に月 1 回程度の開催を予定しています。

ただ、コロナ禍の影響があり、先が見えない部分もありますので、状況に応じて、各委員にご意見をお伺いすることも視野に入れながら、今年度中にいただいたご意見等を集約したうえで、来年度には、教育委員会として、中学校給食のあり方を取りまとめ、方針を策定していきたいと考えています。

なお、本日の案件に対するご意見についてですが、限られた時間の中で、多くの資料をご覧いただきましたので、会議終了後になって更にご意見や、ご質問等が生じる場合もあるかと存じます。

会議終了後にお気づきの点等がございましたら、おいしい給食課へご連絡いただきますようお願いいたします。加えて、後日、会議録作成にあたり、委員のみなさまへ内容の確認をさせていただきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

また、のちほど会議終了後、次の開催日程の調整をさせていただきます。

今 城 委 員： 本日は、様々な方々から貴重なご意見をいただきありがとうございます。今後、定期的にこのような会議を開催しまして、枚方市の中学の望ましい給食のあり方について、これからも建設的な意見を出し合っていけたらと思います。

ありがとうございました。